

配合飼料製造工場における食品残さ等の利用実態調査結果 (H17年度実績)の概要について

1 調査目的及び調査対象

昨年度に引き続き、食品製造副産物等が配合飼料の原料にどれくらいの利用されているかを把握するため、配合飼料製造工場を対象に、利用実態調査を実施(対象数は135(140)。回答数は127(116)。回答率は94.1%(82.9%)。括弧内は対前年

2 調査結果の概要

原料使用量は全体で26.4万ト。上位7品目で全体の75%を占める。食品残さ(調理屑等)の利用は3,154トで3工場において、豚、鶏用の飼料原料に利用。

3 H16年度実績との比較

(1)原料の品目数について

- 原料に用いられた品目数は、平成16年度が20品目、平成17年度が25品目。このうち18品目は両年度に共通しており、安定的に配合飼料の原料に利用されていることを示唆。
- 平成17年度には、茶カス、ミカン皮、胚芽粕等7品目が新規に登場していることから、配合飼料メーカーは、利用可能な食品製造副産物を積極的に探索し、利用していることを示唆。

(2) 使用量について

- 使用量は、平成16年度が18.4万ト、平成17年度が26.4万ト。
- 両年度とも主な品目については、軒並み使用量が増加。その中でも、焼酎粕(対前年300%増)、食品残さ(調理屑等)(対前年230%増)の数量拡大が顕著。

(3) 畜種との関係

- 菓子屑、パン屑については、豚・鶏用の飼料原料としての利用が大宗。
- 大豆皮、麦ぬかななどの糟糠類やビール粕については、牛用としての原料利用が大宗。
- 食品製造副産物の利用畜種は、糟糠類の植物性原料については牛用が中心。現在のところ、食品製造副産物を利用して、牛用飼料を製造する工場が多い。

平成17年度食品製造副産物等利用の状況（平成18年度調査）

原料名	使用状況（17年度実績）		対象家畜等				
	工場数	使用量(トン)	豚	鶏	牛	養魚	ペット
雑穀ぬか	2	4,483			1		1
麦ぬか	34	42,553	8	4	30	1	
大豆皮	43	21,306	1	2	40		3
豆腐粕	30	9,403	6	2	23	2	1
デンプン粕	9	4,236			9		
醤油粕	10	7,990		3	7		
ビール粕	28	13,360			27		1
酒粕	2	175	1	1	1		
焼酎粕	13	6,990	7	1	5		
あまに油粕	23	6,814	1	4	21		
ごま油粕	33	30,256	4	24	10	1	
パン屑	45	22,030	44	5		3	
菓子屑	55	63,641	54	4			1
製麺屑	6	1,959	5	3			
バガス	3	607			3		
茶粕	7	158	4	4		2	
コーンスチープリカー	3	6,872	1	3			
ミカン皮	3	101	1	2	1		
ミカンジュース粕	4	890	1		3		
リンゴジュース粕	1	12			1		
豆乳粕	1	156			1		
焼ふ屑	1	165	1				
もろみ酢粕	1	60	1				
胚芽粕	3	16,909	1	3			
ヤシ粕	1	128	1				
計	延べ361	261,254	142	65	183	9	7
食品残さ等（調理屑、食品など）	3	3,054	1	2			
合計	延べ364	264,308	143	67	183	9	7

〔食品残さ等の飼料利用への課題〕

項目	工場数	備考
(1) 品質の安定性・安全性と一定量の確保	32	調理屑、利用されなかった食品、返品などを素材にした原料を使用する場合の課題、回答の上位。 対象工場数：135 課題を回答した工場数：81 回答率：60.0%
(2) 安定的な供給	26	
(3) 栄養成分の安定化、明確化	26	
(4) 動物性たん白質の混入の恐れ	16	
(5) トレーサビリティ	6	
(6) 異物の混入	4	
(7) 価格（栄養成分に見合っているか）	4	
(8) 消費者への理解	4	
(9) 経費（乾燥等にかかる）	4	
ほか		

平成16年度食品製造副産物等利用の状況（平成17年度調査）

原料名	使用状況（16年度実績）		対象家畜等				備考
	工場数	使用量(トン)	豚	鶏	牛	養魚	
雑穀ぬか	1	3			1		
麦ぬか	27	36,188	6	5	22		
大豆皮	40	17,635	2	1	38		
豆腐粕	23	5,781	3	2	19	1	
デンプン粕	5	3,792			5		
醤油粕	8	4,061		2	6	1	
ビール粕	28	11,626			28		
酒粕	2	148	1	1	1		
焼酎粕	5	2,337	2		3		
あまに油粕	22	5,649	1	2	20		
ごま油粕	33	25,087	5	21	11	1	
パン屑	30	13,621	29			2	
菓子屑	46	54,093	45	3			
製麺屑	4	1,900	4	2			
ミカンジュース粕	4	625	1		3		
リンゴジュース粕	2	8			2		
あわぬか	2	333			2		
カカオ豆殻	1	447			1		
焼ふ屑	1	107	1				
豆乳粕	1	91				1	
計	延べ285	183,532	100	39	162	6	
食品残さ等（調理屑、食品など）	2	1,396		2			
合計	延べ 287	184,928	100	41	162	6	

〔食品残さ飼料利用への課題〕

項目	工場数	備考
(1) 品質の安定性・安全性と一定量の確保	26	調理屑、利用されなかった食品、返品などを素材にした原料を使用する場合の課題を聞いた。 対象工場数：140 課題を回答した工場数：65 回答率：46.4%
(2) 安定的な供給	8	
(3) 栄養成分の安定化、明確化	11	
(4) 動物性たん白質の混入の恐れ	10	
(5) トレーサビリティ	9	
(6) 異物の混入	0	
(7) 価格（栄養成分に見合っているか）	11	
(8) 消費者への理解	0	
(9) 経費（乾燥等にかかる）	7	
(10) 臭気	5	
(11) 施設の費用	3	
(12) 脂肪分の酸化 ほか	3	